



# 夢の本棚

発行所：松居直コレクションプロジェクト  
代表：金戸 美紀子  
事務局：石川県小松市 小馬出町10-3  
空とこども絵本館  
☎ 0761-23-0033  
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える <親子読書の奨励> ②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える <絵本文化の研究>  
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える <絵本文化の継承>

『子どもの目』に込めた思い③  
絵本は子どもが作るもの

**子どもの目で絵本を読む**  
◆物語ってというのは、大人になったときに役に立つ。大人になって社会に出たときに、いろんなことに出会う。そうすると、あっ、今自分が出会ってること、あの話の中に出てきたことだな。そうすると、どういう選択肢があるのかなってことが分かってくるんです。◆だから、絵本では、物語の意味を教えたらいけません。教えたらいけません。心の中に入る前に頭に入っちゃいますから。心にまず入って、それがずーっと子どもの生活の中で、成長の中でほんとに深く理解できる。理解するには、まず感じる事が大事です◆この頃は、子どもの目で絵本を読む、あるいは絵本をちゃんと子どもに語ってやる、子どもの気持ちで。そ

**絵は全てが言葉**  
◆その一つの例は、皆さんは絵本の絵をお読みになりますか。絵本の絵は、ご覧になると思うんです。目で見るんです。それでは、ほとんど絵本の挿絵を自分のものにしたとはいえませんが◆絵本というのは、子どもは見るんじゃないんです。読むんです。なぜかという、あれは全部、言葉ですよ。文章だけが言葉じゃないんです。絵は全部、言葉なんです。言葉を読んだら、絵は言葉です。ですから、絵は言葉です。ですから、絵を讀まなければ、絵本は半分も読めたとはいえま



**子どもが思い描く世界**  
◆子どもたちの中に、耳から聞く言葉と、目で見る言葉とが一つになつて、そこに絵本ができるんです。絵本は、子どもが自分で作るんですよ。その世界を思い描くんです。そのときに、どういうふう



**絵本作りの私の体験から**  
◆そういうことが分かっていて、私は絵本を作ったんではありませぬ。ほんとに、まあ夢中で絵本を作ってきたんで、私が体験してきた体験談を『子どものとも』という絵本を作ったとき、体験談をお話して、絵本を少しいろんな角度から理解していただければどうかと思つて参りました◆私自身が、かなり絵本体験を持ってらんです。私は、昭和の初期、幼稚園へ行く前から、母が絵本を讀んでくれました。その時に、母が読んでくれるのを聞いて、私は絵を讀むというのを知ったんです。子どもがどうい



かいとこを讀むか、あるいは余白は何も書いてないように見えますけど、そこにどういふふうに思い描くか、それを幼児期に体験させるために讀んだんじゃありません◆私は、母が読んでくれるのが嬉しい限りですからね、眠るところではありませぬ。ますますぱっちり目が開く。ところが、母親の方は、昼間疲れてるもんですから、いつの間にか讀んでやろうという気持ちはあるんだけど、口が閉じて声が出なくなつてやがて目もすっーと閉じて行って、ああ寝ちゃつたなというのがわかりますよ。それが面白いんです。安心感がある。ですから、子どもは絵本を讀んでもらうだけで、生活の中のいろんな体験をしてるんです

